

令和4年度使用
小学校用教科用図書研究報告書

国	語
書	写
社	会
地	図
算	数
理	科
生	活
音	楽
図画工作	
家	庭
保	健
外 国	語
道	徳

教科用図書児湯採択地区協議会専門委員会

【採択の基準】

- ア 教育基本法、学校教育法に基づき公示された小学校学習指導要領に示されている各教科の目標を十分達成できるものであり、児童の発達の段階に応じた指導を行うために、系統的に編集されているものであること。
- イ 教材の内容等が充実しており、各教科等で身に付けさせたい資質・能力を育成するための指導の充実につながるものであること。
- ウ 指導者及び児童にとって、使用上の利便性があり、児童にとって分かりやすいものであること。
- エ 地域の願いや思い、児童生徒の実態等に考慮すること。

【調査研究の観点】

項 目	観 点
1 教科目標の達成及び 単元（題材）の構成・配 列等	1 学習指導要領に示された教科（道徳科）の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。 【基準ア】
2 内容や指導の充実	＜全教科＞ 2-(1) 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。 ＜道徳科＞ 2-(2) 主体的に自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりしながら、自分の考えを表現できるような学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。 【基準イ】、【基準エ】
3 利便性の向上	3 学習効果或使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。 【基準ウ】

研究報告書

国 語

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 単元の構成に関しては、課題解決的に学習が展開できるよう、単元を「つかむ」「取り組む」「ふり返る」で構成するとともに、単元の始めに「言葉の力」を提示し、単元を通して学習内容を意識して学習が進められるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、4月を学習の基盤作りの期間とし、学習の基盤となる事項についての単元・小単元を位置付けることで、学んだことを以後の学習で活用しながら、領域ごとの学習につなげる分かりやすい工夫が見られる。
11 学 図	(1) 単元の構成に関しては、「めあてを確認する」「学習に取り組む」「学習をふり返る」という学習ステップで構成されており、見通しをもって学習に取り組ませるとともに、「国語のカギ」で学習のポイントを示し、身に付けさせたい力を定着させるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、「論理的思考力」「感性的思考力」を育てる教材を配置することで、「思考するとは？」について実感を伴いながら理解し、他領域や他教科の学習で活用できる力を育てる工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元の構成に関しては、「てびき」中に、「たしかめよう」「考えよう」「深めよう」「広げよう」が示され、具体的な授業イメージがみえるとともに、単元末の「ここが大事」では汎用性のある学習のポイントが示されており、他の教材でも活用できる工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、一つの領域を集中して学習する「基本単元」と複数の領域を関連させながら学習する「関連単元」とを配列することで、習得した学習内容を活用しながら学びを積み重ねられるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 単元の構成に関しては、「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」で構成するとともに、単元末の「たいせつ」「いかそう」で学習のポイントが示され、他の学習や生活の中でも役に立つような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、領域を関連させて構成したり、短い説明文の「練習」教材の学習後に長い説明文を配置したりすることで、知識・技能の習得・活用・探究が繰り返されながら定着できるような工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各学年の最初に「話すこと・聞くこと」の小単元を設け、協働的な学び合いや対話的な学びが展開できるようにしている。また、各単元の既習事項とつなげる「つかむ」及び、各単元末の「ふり返る」の充実を図ることで、自らの学習状況を認知し、主体的な学習を進められる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「ことばあつめ」「言葉の広場」を設け、語彙を豊かにし、実生活で活用できるようにしている。また、情報の扱い方や目的に応じて情報を収集する単位では、情報を効果的に活用して課題解決を図る力を確実に身に付けられるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元末に身に付けさせたい「言葉の力」を設け、自分の学びや変容を自覚させるとともに、次の学びへの意欲を高めることにつなげている。また、多様な見方・考え方を働かせるために、ノートやメモ、カードや図表を随所に例示し、自分の考えを分かりやすく伝えるための文章を書かせる工夫が見られる。
11 学 図	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、読む単元の最後に話し合う活動を設け、対話を通して協働的に学ぶことができるようにしている。また、各学年の最初に身に付けさせたい力を明示し、「話す・聞く」「書く」の単位では、学習の見通しを提示することで、主体的な学習を進められるとともに、学びの自覚化を促す工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、言葉の特徴や由来に着目させる「言葉のいずみ」を設け、言葉への関心や言葉の力を獲得する学習の基礎を作っている。また、既存の知識や経験から物事を分析的にとらえる単位では、様々な情報を結び付け課題解決を図る力を確実に身に付けられるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、4年以上の説明文では「比べて読む」教材を設け、既存の認識にとらわれず、思考を再構成してとらえ直すことで、学ぶ意欲を喚起させることにつなげている。また、教材に対する考えをもたせ、筋道の通った論を展開させるために、根拠を明確にして自分の考えを分かりやすく伝えるための文章を書かせる工夫が見られる。

17 教 出	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、単元末の「てびき」にキャラクターの学びの観点を設け、楽しく学べる対話的な要素が図られるようにしている。また、各学年巻頭に学びの見通しをもたせ、「話す・聞く」「書く」の単元では、学習過程を焦点化することで課題を解決する力を自ら獲得させようとする工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「言葉を学ぼう」「言葉をふやそう」を設け、実生活に生かせる例を多く示すことで、言葉の力を身に付けさせようとしている。また、集めた情報とそれについて考えたことを記述する単元では、情報の扱い方を知り、探求的な学びができるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、各単元末の「てびき」で他教科でも活用できる学習のポイントをまとめた「ここが大事」を設け、学ぶ意欲を多様な場面で生かせるようにつなげている。また、思考を整理・可視化するためにふせん・カードなど学習のツールを多く例示し、意見を裏付ける理由や事実を書いて説得力のある文章を書かせるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元で場面に応じた話合いの仕方をイラストと話例で設け、対話的な学びが図られるようにしている。また、単元末に学習の取り組み方として、上段に学習過程に沿っての課題、下段は課題解決のための視点が明示されていることで、主体的な学習を進められるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、巻末「ことばの宝箱」で「考えや気持ちを伝える言葉・学習に用いる言葉」を設け、学年に対応した語彙や言葉の力が確実に定着できるようにしている。また、特設教材「じょうほう」では、情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かすような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、単元末の「学習」に、育成すべき力や手順、学びのポイント等を示した「たいせつ」及び、他教科や生活に生かす場面を示した「いかそう」を設け、学ぶ意欲を多方面へとつなげている。また、帯単元「続けてみよう」では、継続的な表現活動を設定し、自分の考えを書いて伝えることの抵抗感を減らすような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性については、児童にとって定着が難しい内容を身に付けさせることができるように、「漢字の練習」や「言葉の練習」の練習教材が設けてあり、デジタルコンテンツを活用して、繰り返し練習できるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、物語・説明文教材に1行ごとのドットが付き、新出漢字を欄外で四角囲みにすることで、文字のサイズを大きくし印象に残す工夫が見られる。
11 学 図	(1) 学習効果や使用上の利便性については、適宜デジタルコンテンツが活用できるように単元によってQRコードが掲載してあり、1年の発音指導においては、動画により効果的な口形指導ができるよう工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、物語・説明文教材の一部に1行ごとのドットが付き、本文の新出漢字に単語ごとにルビを振ることで、読みの負担を軽減する工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習効果や使用上の利便性については、児童の学びを広げることができるようにウェブサイトと連動しており、学習時に参照できる資料等の発展的内容をデジタルコンテンツを活用して調べることができる工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、1・2年の新出漢字の書き順について、本文下の欄外に示すことで発達の段階に配慮した工夫が見られる。
38 光 村	(1) 学習効果や使用上の利便性については、適宜デジタルコンテンツが活用できるように、単元によってQRコードが掲載してあり、学習の参考として内容をさらに深めたり、興味・関心を高めたりするような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、新出漢字を本文下の欄外と単元の最後にもまとめて示すことで、振り返りをしやすくする工夫が見られる。

研究報告書

書 写

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 単元の構成に関しては、「書写のかぎ」を置き、ねらいを明確にし、「見つけよう」「たしかめよう」「生かそう」の3段階に分けて学習を進めることで、書写の知識・理解の定着を図る工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、基本的事項を練習したあとに国語科と連動させた言語活動「生活に広げよう」を配置することで、他教科の学習の中で書写の学びを生かす工夫が見られる。
11 学 図	(1) 単元の構成に関しては、学習の進め方を「確かめて書こう」「考えて書こう」「生かして書こう」の分かりやすい書写学習を示すことで、技能の習得や深い理解につながるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、書き込みができる「前学年の復習」と「一年間のまとめ」を配置することで、書写技能を確認させ、日常生活に生きて働く力を身に付けさせるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「考えよう」「ここが大切」「生かそう」の3段階に分け学習させることで、学び方が分かり、学習意欲につながるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、他教科と連動させた言語活動「レッツ・トライ」「書いて伝え合おう」を配置することで、日常生活に生きて働く力を身に付けさせるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階に分け学習を進めることで、見通しをもたせ、学び方が分かり学習意欲につながるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、国語科の教科書教材と連動させた言語活動「国語の学習に生かそう」を配置することで、国語科や他教科、日常生活でも生きて働く力を育成するような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 単元の構成に関しては、学習の流れを「考える」「確かめる」「いかす」の3段階に分け学習を進めることで、学び方が分かり、学習意欲につながるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、これまでの学習を生かし、自分で題材を選択できる「学習をいかして」を配置することで、学びを日常に生かすような工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な硬筆の文字から課題をつかませたり、冒頭の「集めて使おう」で一年間の見通しをもたせたりして、学年末単元「学びを生かそう」で学んできたものをどう使うかを意識させる工夫が見られる。また、課題解決に向けて友達と学び合うことで、書くことの楽しさへと広げている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、低学年から水書による学習を取り入れた運筆を意識させたり、一単元に一つの「書写のかぎ」で単元のねらいを焦点化し、「書写の学び方」をもとにした学習過程が明確になったりするような工夫が見られる。また、集めた情報を整理して、資料作りにつなげる学習へと広げている。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、習得した技能が他の文字にどのように生かせるかを考えさせたり、他教科の学習や日常生活に広げることで、ふだん書くときにも生かしたいという意欲につなげたりする工夫が見られる。また、資料作りの単元では、配列や筆記具を考えて、読む人に伝わりやすくする学習へと広げている。
11 学 図	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、試し書きで自分の課題を見つけたり、課題解決の過程で書いたまとめ書きと比較して、自分の学びを自覚し課題の達成を感じたりできる工夫が見られる。また、自分と友達の書いた文字を互いに見比べながら、自らの書字技能の向上へと広げている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、キャラクターを活用して学習のねらいを把握させたり、整った読みやすい文字を書くために豊富な書き込み欄を設け、書く習慣を身に付けさせたりする工夫が見られる。また、情報を整理しながら、ポスター・はがき・手紙などの実用性の高いものの書き方につなげる学習へと広げている。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「書写の資料館」で文字にかかわる様々な資料に触れさせたり、調べ学習をまとめる時の筆記具選びの視点を学ばせたり、実生活に生きる練習をさせる工夫が見られる。また、学校や日常の生活だけではなく将来にまで目を向け、相手や目的を意識しながらわかりやすく書く学習へと広げている。

17 教 出	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「学習の進め方」で見通しをもたせたり、めあてに合った練習用紙を作ったりすることで、主体的に課題に取り組み課題解決への具体的方法がわかる工夫が見られる。また、作品について評価し合いながら、お互いのよさを伝え合う学習へと広がっている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「よい姿勢と用具のあつかい方」で適切な運筆を意識させたり、「ためし書きまとめ書き」で毛筆と硬筆の関連を図ったりする工夫が見られる。また、ポスターや手紙など身近なものを書く活動を通して、情報を整理する力や目的に応じた書き方の学習へと広がっている。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、自分の課題や目的に合った文字、筆記具を選ばせたり、身に付けた書写力を学校生活でどう生かせるかを意識させたりする工夫が見られる。また、相手意識をもった書き方を提示することで、適切な敬語表現や学年の発達段階に合ったふさわしい伝える力の学習へと広がっている。
38 光 村	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、3年以上の各教材に「学習の進め方」を示すことで学習の見通しをもたせたり、学習のポイントがひと目でわかる「たいせつ」を設け、学習の前後での自己の変容が実感できたりする工夫が見られる。また、書いた文字を互いに確かめ合いながら、文字を書くことの楽しさへと広がっている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、1・2年に「しょしゃ体操」を設け、適切な姿勢と筆記具の持ち方を意識させたり、文字を上手に書くためのスモールステップを設け、着実に基礎・基本を身に付けさせたりする工夫が見られる。また、伝えたい情報を考えて、文字の大きさや配列につなげる学習へと広がっている。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、書写で身に付けた力を日常の文字に生かすように書く意欲を喚起させたり、「漢字図鑑」で成り立ちを解説し、文字への関心を高め書写学習に親しんだりできる工夫が見られる。また、新聞を題材に手書きの力を考える教材を設け、他教科や社会生活と結び付ける学習へと広がっている。

116 日 文	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学年の発達段階に合わせた「学習の進め方」を示したり、めあてと自己評価欄を設け自己の学習能力を知ること、次の学習に生かしたりする工夫が見られる。また、まとめ書きで自分や友達のよいところを共有し、学び合いの楽しさへと広げている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、低学年から水書による学習を取り入れて適切な運筆能力を意識させたり、書き込み欄を設け、自分の文字と向き合い正しく整えて書く活動を取り入れたりする工夫が見られる。また、目的に応じた掲示物の書き方を通して、文字や情報の効果的な書き方についての学びへと広げている。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「国語の広場」「生活と書写」を配列して、日常生活や他教科での活用を図ったり、文字を書く様々な場面を想像して、目的に応じて表現様式が異なることを考えさせたりする工夫が見られる。また、各学年に「言葉の窓」を設け、学習した言葉を使って文を作り伝え合う学習へと広げている。
----------------	--

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性については、利き手を配慮した書き込み欄や、学習事項が分かるインデックスを付けることで、円滑な活動ができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、毛筆教材を実際の半紙に書いた手本に近い大きさを示すとともに、単元によってはインターネットを使った動画学習ができるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 学習効果や使用上の利便性については、硬筆教材は書き込み欄を豊富に設け、全ての復習・まとめの単元を書いて確かめる構成にすることで、学習後も学習効果を確認できる工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、基本点画の筆遣いを朱墨写真で取り上げるとともに、筆遣いの基本点画や始筆のマーク、補助線等を用いるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習効果や使用上の利便性については、全学年の裏表紙に「鉛筆の持ち方」、1学年では水書用紙が添付してあることで、適切に運筆する力を高めるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、文字の組み立て方を色分けして示すとともに、字形を整えるポイントで可視化できるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 学習効果や使用上の利便性については、毛筆教材を大きく示し、同じページに朱墨で筆順が分かるものを掲載することで、児童が学習に取り組みやすくするような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、毛筆教材で始筆から終筆までの穂先の向きや筆圧をキャラクターで示すとともに、点画のつながりを意識させるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 学習効果や使用上の利便性については、キャラクターを通して学習のポイントや文字に関する知識を明示することで、主体的な学習が進められるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、巻頭に「書く姿勢」等の写真を大きく掲載してポイントを明示するとともに、文字の大きさや配列を意識させるような工夫が見られる。

研究報告書

社 会

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	側注に毎時間の学習問題を提示し、アニメのキャラクターの吹き出しで社会的な見方・考え方を具体的に示している。また、各学年の最初に見開きで「学習の進め方」を設け、「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習段階をたどりながら単元を進める展開になっており、見通しをもって学習できるような構成・配列の工夫が見られる。
17 教出	側注に毎時間の学習問題を提示し、子どものキャラクターの吹き出しで問題解決のための視点や方法を具体的に示している。また、各学年の最初の見開きで「社会科学習の進め方」のページを設け「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」という段階を踏みながら単元を進め、「次につなげよう」の欄で次の時間の中心となる問いにつなげ、追究意欲を持続させるような構成・配列の工夫が見られる。
116 日文	側注に毎時間の学習問題を提示し、子どものキャラクターの吹き出しにある「わかったこと(!)」や「疑問に思ったこと(?)」で学習問題を追究したり解決したりするヒントを具体的に示している。また、各学年に「この教科書の使い方」のページを設け、「わたし(たち)の問題」「学習問題」「さらに考えたい問題」の3つの要素をもとに見通しをもって学習できるような構成・配列の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 本時の学習の手がかりとなる視点をアニメのキャラクターのマークを活用して示すことで、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 各学年に学習場面に応じた学び方を「まなび方コーナー」として随所に示したり、効果的に学習に役立てられる資料や写真を豊富に掲載したりして、主体的に問題解決的な学習を進めていくために必要な、生きて働く「知識・技能」の習得ができるような工夫が見られる。 (3) 「まとめる」場面において、習得した知識を活用してノートにまとめるなど多様な表現活動に取り組んだり、自分にできることを考えて選択・判断する活動を設けたりして「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。 (4) 単元末に「ひろげる」コーナーを設け、「日本の医学の進歩にこうけん～高木兼寛」等の資料に掲載することで、児童が興味・関心をもち、さらに追究していく活動を提示するなど、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような工夫が見られる。 (5) 見開きを使った写真など、必要な情報を読み取るための様々な資料が多数掲載され、「思考力、判断力、表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習の視点や方法を巻頭の特設コーナーで提示したり、キャラクターの吹き出しを設けたりすることで、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 問題を解決していく上で必要な学習の調べ方やまとめ方などについて解説した「学びのてびき」を適宜、紹介することで問題解決に向けた学習に必要な生きて働く「知識・技能」の習得ができるような工夫が見られる。 (3) 「まとめる」コーナーでは、児童が多角的な視点から対話的に学習できるようキャラクターの吹き出しが提示され、「キーワードをふり返ろう」で既習事項の確認をしてまとめさせたり、社会の背景の関係図を描かせたりして、単元ごとに確実に「思考力・判断

	力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。 (4) 単元末に「ひろげる」コーナーを設け、身近な町の事例や関わりのある人物・地図等の資料を取り上げるなど、学んだ内容をさらに追究する活動につなげられるよう発展的な資料を提示することで、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような工夫が見られる。 (5) 社会生活についての理解を図るために、地図帳を活用しながら調べ学習ができる説明があり、社会や国土を関連付けて必要な情報を読み取るための工夫が見られる。
116 日 文	(1) 「空間」「時間」「関係」の3つの視点で整理された「見方・考え方」のコーナーを提示することで、社会的事象の見方・考え方を働かせながら、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (2) 学習上重要な用語を「キーワード」として提示したり、観察や調査、表現活動などが示された「学び方・調べ方コーナー」を設けたりすることで、学習に必要な生きて働く「知識・技能」の習得ができるような工夫が見られる。 (3) 「まとめる」段階において、異なる立場から話し合い、どう行動すればよいかを考えさせる過程を設け、さらに考えたい問題をノートにまとめる方法の例を示すなどして、社会との関わり方を選択・判断しながら、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。 (4) 単元末に「学びを生かそう」のコーナーを設け、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような工夫が見られる。また、宮崎県の畜産業（口蹄疫を含む）について6ページに渡って掲載し、児童が郷土の社会的事象に関して追究することができるような工夫も見られる。 (5) 日本各地の平均気温や平均降水量に関する地図やグラフを掲載するなど、必要な情報を読み取るために様々な資料が掲載され、「思考力、判断力、表現力等」を育成できるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 表記・表現については、一文を短くし全体の文章量が過多にならないような簡潔な文章表現で、単元の「めあて」、小単元の「学習問題」、本時の「めあて」を教科書紙面に構造的に示して学習内容を振り返りやすいような工夫が見られる。 (2) 「Dマークコンテンツ」が示されている箇所には、社会科学習への興味・関心を高めるコンテンツが用意しており、目次ページに掲載されたURLか2次元コードからアクセスすると家庭学習でも活用できるようになっているので、さらに学習を深めることができるような工夫が見られる。 (3) 各資料等については、子どものキャラクターが、アニメのキャラクターと学習を導いたり、児童に注目させたい本時の「めあて」や「学習問題」が目立つように工夫したりして児童が見やすく読みやすいような配慮が見られる。 (4) 5年生は上・下、6年生は政治・国際編と歴史編の2冊で編成されていて、歴史学習が分断せずに1冊の本で学習できる利点がある。
17 教出	(1) 表記・表現については、単元を通して追究していく問いを「みんなで作った学習問題」、各単位時間の中心となる問いを「この時間の問い」として明示したり、追究の見通しを立てる場面もていねいに例示したりして、学習内容を振り返りやすいような工夫がみられる。 (2) 「まなびリンク」を活用して、学習内容に応じた学年別専用サイトから学習に役立つ情報を収集することができ、さらに学習を深めることができるような工夫が見られる。 (3) 各資料等については、子どものキャラクターが学習を導き、「この時間の問い」から「次につなげよう」「まとめる」まで、問題解決的な学習の過程が分かりやすく示されている。また、子どもの問いや発言のかたちで吹き出しが例示しており、児童が見やすく読みやすいような配慮が見られる。 (4) 3～6学年ともに1冊で編成されている。6年生については、「政治→歴史→国際」となっていて、子どもの学習意欲が1年間を通して高まることをねらいにし、1冊を通した「学びのストーリー」が成り立つように編集されている。

116 日文	(1) 表記・表現については、資料の読み取りや、本文と資料を関連させながら読み取りしやすいよう、中心資料を大きく中心に配置したり、問題解決学習の過程をわかりやすく配列したりして、学習内容を振り返りやすいような工夫が見られる。 (2) 「デジタルマーク」が活用でき、デジタル資料を使って児童の興味・関心を引き出し、さらに学習を深めることができるような工夫が見られる。 (3) 各種資料等については、資料が大きめに配置され、児童の細かい気付きを引き出す工夫が見られる。また、子どものキャラクターの発言や活動の様子が、学習者の意欲を喚起するように構成されている。また、「空間」「時間」「関係」の3つの視点で地図や資料を分析させるコーナーがあり、見やすく読みやすいような配慮が見られる。 (4) 各学年ともに1巻（合本）の構成であるが、軽い再生紙を利用するなどの工夫が見られる。
--------	---

研究報告書

地 図

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 町を俯瞰して地図ができていく過程を分かりやすく示すなど、地図学習の基礎の定着を図ることができるような配列の工夫が見られる。 (2) 各産業の日本地図を同ページで比較したり、日本の歴史と世界の歴史地図を比較したりする等、社会的事象を理解しやすくなるための構成の工夫が見られる。
4 6 帝国	(1) 初めて地図帳に触れる3年生にもよく分かるような「地図のやくそく」を示すとともに、イラストを多く用いた表現から詳しい表現へと、発達の段階に配慮した配列の工夫が見られる。 (2) 社会的事象を読み取りやすいように、目的に応じて地図・表・グラフを見やすく整理し、地理的な位置や地域間の結び付きを的確にとらえやすくなるための構成の工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) キャラクターのセリフによる学習への手がかりの提示やDマークというデジタルコンテンツによって関連する資料を見ることができるなど、地図活用の意欲を喚起したり、児童の思考を促したりして、主体的・対話的で深い学びを展開できるような工夫が見られる。 (2) 世界地図に関連して各地の動物や料理の写真を掲載して、関心・意欲をもたせるなど、生きて働く「知識・技能」を習得できる工夫が見られる。
4 6 帝国	(1) 課題意識をもたせる「地図マスターへの道」や、デジタルコンテンツの提示、表やグラフの提示が分かりやすく、地図活用の意欲を喚起したり、児童の思考を促したりして、主体的・対話的で深い学びを展開できるような工夫が見られる。 (2) 世界地図に関連して主要な国々を写真を交えて紹介することで、関心・意欲をもたせるなど生きて働く「知識・技能」を習得できる工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 「地図」については、文字や記号を大きくするとともに、ユニバーサルデザイン書体を採用して読み取りやすくしたり、陸の高さや海の深さの表し方をメリハリのある色調で色を付けたり、各地の主な生産物等をイラストで多数掲載したりして、見やすく分かりやすいような工夫が見られる。 (2) 「資料掲載」については、自然災害と防災に関する学習において、日本列島全図を用いることで、日本の自然環境と災害との関係を考えることができるという工夫がなされている。また、日本の歴史に関する学習において、年表と世界地図を用いることで、日本と世界との関わりに気付き、理解を深めることができるような工夫も見られる。 (3) 「造本」については、4年間の使用に耐えられるような丈夫な綴じ方にしたり、折り込みページの折り目部分に破れ防止加工を施したり、児童が書き込みしやすい再生紙を用いたりして、耐久性や利便性を高めるような工夫が見られる。
46 帝 国	(1) 「地図」については、3年生から6年生までの発達の段階を考慮し、5色印刷の手法を用いて鮮明で立体感のある表現を施すとともに、果樹園や畑等の土地利用が分かりやすいように地図記号を入れたり、ユニバーサルデザイン書体を採用したり、文字の周りに白色系の縁を付けたりして読みやすさを追求し、見やすく分かりやすいような工夫が見られる。 (2) 「資料掲載」については、学習テーマに沿った地図を大きく配置し、周辺の資料と関連付けて学習を深めることができるような工夫が見られる。また、日本の産業の学習において、各箇所のグラフを用いることにより、生産量の変化や地域の特性等を幅広い視点で学ぶことができるような工夫が見られる。 (3) 「造本」については、軽くて耐久性に優れた地図専用用紙を使用し、日々の持ち運びの負担を軽減したり、ページの落丁を防ぐための丈夫な加工を施したり、折り目部分の表面をコーティングしたりして、耐久性や利便性を高めるような工夫が見られる。

研究報告書

算 数

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 算数科の目標を達成するために、「たしかめよう」や習熟度に応じた巻末の「ほじゅうのもんだい」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、習熟に時間を要する内容やスパイラルに学習することが有効な内容については、2つの単元に分けて段階的に取り扱うような単元の構成・配列の工夫がされている。
4 大日本	(1) 算数科の目標を達成するために、毎時の適応問題を豊富に掲載するとともに、「たしかめ問題」や「プラス・ワン」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、児童が苦手としやすい学習を、従来より後ろに移動したり、他教科で活用できるよう早い時期に位置付けたりするなど単元の構成・配列の工夫がされている。
11 学図	(1) 算数科の目標を達成するために、「できるようになったこと」や巻末の「ほじゅう問題」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、「割合」など児童のつまずきやすい単元を2つに分けたり、概念の理解が難しい「倍」を特設単元にしたりして、段階的・重点的に学習できるよう単元の構成・配列の工夫がされている。
17 教出	(1) 算数科の目標を達成するために、単元末の「ふりかえろう」「たしかめよう」、習熟度に応じた巻末の「ステップアップ算数」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、第3学年では「分数」の後に「小数」を配置する等、既習事項を活用して学習内容を関連付けて学べるように、単元の構成・配列の工夫がされている。
61 啓林館	(1) 算数科の目標を達成するために、単元途中の「練習」や単元末の「学びのまとめ」、習熟度に応じた巻末の「もっと練習」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、第5学年では「割合」（2学期）、「割合のグラフ」（3学期）のように類似内容が複数の単元に分けられ、段階的に習熟の時間が確保できるよう単元の構成・配列の工夫がされている。
116 日文	(1) 算数科の目標を達成するために、「たしかめポイント」や、習熟度に応じた巻末の「算数マイトライ」等で学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。 また、今後の学習につながる素地的内容が多い低学年は、単元を分散的に構成し、内容が領域間で関連深くなる高学年は、関連する内容をまとめるなど単元の構成・配列の工夫がされている。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 数学的な見方や考え方を働かせるために、学習内容の振り返りを話し合ったり、多様な情報を読み取って判断し、自分の考えをもとに発表し合ったりする活動を設けるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、学習内容の理解が確認できる「たしかめよう」を全単元に設定し、自己評価や復習ができるようにするなどの工夫がなされている。 (3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、問題解決の流れに即した思考や表現の過程が書かれたノートを例示するなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。
4 大日本	(1) 数学的な見方や考え方を働かせるために、多様な解決方法を比較検討して話し合ったり、長文や統計資料から情報を読み取り、根拠を説明したりする活動を設けるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、巻末に全単元の補充問題を設定したり、前学年までの学習内容を振り返ったりすることができるようにするなどの工夫がなされている。 (3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、第1学年からノートの書き方例を掲載し、巻末の図を活用して説明することができるなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。
11 学図	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、特に重要な「見方・考え方」を9体のモンスターで表したり、友達と協力しながらよりよい解決に向かえる話合い活動を設定したりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、児童の思考に沿ったマークや小タイトルを掲載し、「確かめたいな」では、学習内容を確認できるようにするなどの工夫がなされている。 (3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、考えや疑問を書くことで学習を深める「考えるノート」を掲載するなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。

17 教出	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、問いをもって学び合うことができる学習過程にしたり、学び合いで使える数学的な考え方やそれを引き出す言葉を整理したりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、「学びの手引き」を掲載し、分からない箇所があれば学年を超えた学び直しができるようにするなどの工夫がなされている。 (3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、友達の手紙のよさを見つける活動で学級全体の表現力を高めるなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。
61 啓林館	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、めあてを全ての時間に例示し、児童の考えや気づきを強調して取り扱ったり、多様な考え方を示し、話し合いの場面を適宜設定したりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、巻末に「もっと練習」を設定し、難易度を2段階に設定した問題により、習熟度別学習にも対応できるようにするなどの工夫がなされている。 (3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、問題解決的な学習の流れと、その流れに沿ったノートを例示するなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。
116 日文	(1) 数学的な見方・考え方を働かせるために、多様な見方・考え方・解決方法の手がかりを示して問題解決の見通しをもたせたり、発表の仕方や話し合いの視点を具体的に提示したりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫がされている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得できるように、巻末に「算数マイトライ」を設定し、学習状況を確認したり、広げたり、深めたりできるようにするなどの工夫がなされている。 (3) 学びを整理し深めるノート指導に関して、考えた過程を図や式・言葉で整理して表すとともに、友達の考えを書き示したノート例を掲載するなど、今後の学習に対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫がされている。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 児童にとって分かりやすくするために、第2学年以降、一単位時間の終わりに、まとめの確認として「学習の振り返り」において児童の言葉を例示することで、学びに向かい続けようとする態度を育むことができるように配慮されている。
4 大日本	(1) 児童にとって分かりやすくするために、各学年の教科書を上・下巻まとめて一冊にするとともに、単元毎のインデックスを奇数ページの右上に表記することで、ページを開きやすくなり、児童自身が振り返りや学び直しをしやすくなるように配慮されている。
11 学図	(1) 児童にとって分かりやすくするために、各単元の導入「?を発見」では、問題発見の場면을興味をもちやすいイラスト形式で提示し、児童が興味・関心をもって問題に触れ、積極的に単元の学習に入っていけるように配慮されている。
17 教出	(1) 児童にとって分かりやすくするために、第2学年以降の各単元のまとめの段階において、4コマまんがで提示するとともに、穴埋め問題を設定することにより、児童が学んだことのよさや考え方を振り返ることができるように配慮されている。
61 啓林館	(1) 児童にとって分かりやすくするために、全学年の教科書の「導入」「まとめ」「重要ポイント」等、要所要所においてQRコードを掲載し、学習の参考になる動画や補充問題等のデジタルコンテンツを授業や家庭学習で活用することができるように配慮されている。
116 日文	(1) 児童にとって分かりやすくするために、第2学年以降に「問題解決のための過程」や「授業の流れ」を示した「学び方ガイド」を掲載し、児童がどのような内容の学習でも「学び方ガイド」を活用しながら見通しをもって問題を解決できるように配慮されている。

研究報告書

理 科

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 問題解決の段階で「レベルアップ理科の力」を設定し、各学年で重点的に育成する問題解決の力を確実に育成することができるようにするとともに、「学んだことを使おう」を設定し、他教科を含めた既習内容と関連付けながら学習ができるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 「算数や社会科で学ぶこと」を設定し、他教科等で学んだことも生かして学習の理解が深まるようにするとともに、単元末で「りかのたまてばこ」を設け、学んだことを環境保全やキャリア教育、防災教育、日本の伝統文化などと結び付けて学習できるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 単元の導入では、高めたい資質・能力をマークで示し、児童自身が身に付けなければならない力を意識できるようにするとともに、単元末では「できるようになった」を設定し、導入場面と対応させ、どんな力が身に付いたか、ふり返りができるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元の導入では「学習のつながり」を設定して、各学年間の関連する既習単元や中学校までの発展単元を示し、学習の系統性が意識できたり、問題解決の中で「思い出そう」を設定して、既習内容の知識・技能を示し、それを生かしたりして学習できるような工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 単元の導入では「思い出してみよう」を設定し、日常生活や既習内容を振り返ることができるようにするとともに、問題解決の各段階が視覚的に分かるようにフラッグで示し、それらを矢印でつなぐことで、児童が学習に見通しをもったり、学習段階を把握したりできるような工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 児童が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、単元冒頭の写真をもとに気付きや疑問が生じ問題が設定されるまでの流れをまんがや写真などで示すとともに、「学んだことを使おう」「理科のミカタ」を設定するなどして、児童に見方・考え方のヒントを与える工夫が見られる。 (2) 単元末に「学びを生かして深めよう」や「理科のひろば」でふり返る場面を設定するとともに、観察・実験に必要な技能について示したり、ノートや記録カードの例を取り上げたりすることで、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 「計画しよう」では、児童間の対話を通して思考を深め、他者とかかわりながら自分の考えをより妥当なものにしていく様子が例示されており、「思考力・判断力・表現力」を育成するような工夫が見られる。 (4) 単元の導入では、簡易的な体験や資料性の高い写真を取り上げるなどして、自然の事物・現象に対する児童の興味・関心を高めるとともに、単元末の「ふり返ろう」では、学習内容と自らの生活とを関連付けてふり返らせるなどして「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 児童が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、単元の導入において、写真を見て疑問をもったり、既習内容を想起したりするような会話文が示されている。また、観察・実験の見出しに条件を整えるなどの理科の考え方を示しており、児童に解決の見通しをもたせる工夫が見られる。 (2) 問題から結論までの問題解決の過程を分かりやすく示すとともに、観察・実験の結果を整理・確認する場面を設定したり、学習内容を生かしたものづくりを取り入れたりすることで、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 各学年で育成を目指す問題解決の力を☆マークを付けて強調しており、問題解決においては、話し合いながら考察したり、理科用語を重視したまとめを示したりして、「思考力・判断力・表現力」を育成するような工夫が見られる。 (4) 内容に関連する有効な資料を多数掲載することで、児童の知的好奇心に応え、より主体的な学びにつなげるとともに、単元末の「学んだことを生かそう」では、学習したことを生かして考えさせる場面を設定したり、「りかのたまてばこ」では、生活場面と関連付けた構成にしたりするなどして、「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような工夫が見られる。

11 学 図	(1) 児童が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、単元の導入で学習内容と問題を解決するための見方・考え方を示したり、単元冒頭の「調べていこう」に単元で児童に身に付けさせたい力を示したりすることで、見通しをもって学習できるような工夫が見られる。 (2) 「やってみよう」では、計画や予想の際のポイントを確認することや観察・実験の技能をすぐにふり返ることができたり、「まとめてみよう」や「大事な言葉のマーク」で学習内容を確認することができたりして、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 学習を進める上で、自分の問いが生まれるように積極的に話合いの場を設けたり、「まとめてみよう」では、習熟・活用を図るために、指定された語句を用いた説明活動を設けたりするなど、学習したことを活用させながら自分の考えを積極的に表現することで、「思考力・判断力・表現力」を育成するような工夫が見られる。 (4) 単元の導入では、学習の流れを示したり、関連する写真や資料を多数掲載したりするなどして、児童の興味・関心を高めるとともに、まとめの段階に「♥（学びをつなげる）」場面を設けたり、学習内容を次の学習につなげたりすることで、「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元の導入において課題意識を高めるための「見つけよう」を設定しており、その課題解決に必要な見方・考え方を「子どもキャラクター」と「先生キャラクター」で示すことで、児童が見通しをもちながら主体的に学習に取り組めるような工夫が見られる。 (2) 学年間、単元間のつながりや既習内容を示すとともに、予想だけではなく、結果の見通しをもつための視点や観察・実験の技能の手順等を縦一列に見やすく配列したり、写真やイラストを用いて分かりやすく示したりすることで、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 「学びを広げよう」において、学習した内容を身の回りの事象に応用して考えたり、「確かめ」において、情報を正確に読み取り、知識・技能を活用しながら自分の考えをまとめたりすることをとおして、「思考力・判断力・表現力」を育成するような工夫が見られる。 (4) 専門家からのメッセージを掲載したり、最先端の科学を紹介したりするなどして、児童の興味・関心を高めるとともに、問題解決の過程の中に「学びを広げよう」を位置付け、学習内容を次の学習や日常生活に関連させるなどして、「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような工夫が見られる。

61 啓林館	(1) 児童が理科の見方・考え方を働かせながら問題を科学的に解決できるように、単元導入に「活動」「問題をつかもう」の段階を設定し、問題を見いだす過程を示したり、児童の思考を支援する教師の発問や児童が根拠をもって対話をする場面を例示したりすることで、学習の進め方が身に付くような工夫が見られる。 (2) 観察・実験の手順を図や写真やQRコードを用いて分かりやすく示すとともに、結果を表やグラフに整理したり、学習内容を単元末の「たしかめよう」で分かりやすくまとめたりすることを通して、生きて働く「知識・技能」の定着を図ることができるような工夫が見られる。 (3) 巻末に科学的な考えを整理し、深めることができるように「ノートまとめ方」や「伝えるときまとめ方」が示されており、学習したことを活用させながら表現することをおして、「思考力・判断力・表現力」を育成するような工夫が見られる。 (4) 単元の導入では、「学習のめあて」を示したり、児童の活動写真を大きく掲載したりするなどして、児童の興味・関心を高めるとともに、「理科の広場」や単元末の「つなげよう」では、学習内容を日常生活と関連させるなどして、「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるような工夫が見られる。
--------	---

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 教科書のサイズが大きく、「観察」「実験」では、拡大した写真や絵、図を提示することで、細部や動植物のつくりが明確で分かりやすく、児童が正確に観察や実験ができるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 単元の導入では、「問題を見つける」ページを設け、拡大した写真や興味を引くようなキャラクターを提示することで、学習問題につながる気付きや疑問などが出るような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 表紙や裏表紙には、科学者の写真や言葉を提示し、理科への興味・関心を高めるとともに、単元導入では、学習の流れを写真で示したり、各ページの下部に学習段階を示したりするなど、学習の見通しがもてるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 「問題」「観察」「実験」「結論」などの各段階では、ポイントを赤枠の中に示したり、キーワードを色付けしたりして、学習の流れや調べて分かったことなどが明確になるような工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 単元の導入や実験・観察の段階では、大きな写真や問いかけが提示されていて、児童の学習内容への興味・関心を高めるとともに、新たな気付きや疑問などが出るような工夫が見られる。

研究報告書

生 活

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点 1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 生活科の目標を達成させるために、上巻では自分と身近な「ひと」や「もの」との活動、下巻では自分と地域や3年生の社会科につながるような活動で構成されている。また、「がっこうせいかつすたあと」という項目を設け、今後の学習活動の見通しやイメージがもてるような工夫が見られる。
4 大 日 本	(1) 生活科の目標を達成させるために、上巻では自分と関連のある身近な人と関わる活動、下巻では自分と友達や地域の人と関わる活動で構成されている。また、「しょうがっこうせいかつはじまるよ」という項目を設け、入学後の学習活動がスムーズに行えるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 生活科の目標を達成させるために、上巻では自然と触れ合う活動、下巻ではいろいろな人やものに関わる活動で構成されている。また、「がっこうだいすき」を配置し、発達の段階を配慮しながら、イラスト等により情報が分かりやすく子どもたちに伝わるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 生活科の目標を達成させるために、上巻では自分と学校、家庭の活動、下巻では自分とまわりの人や地域との活動で構成されている。また、「まんぞくはしご」という欄で、児童が自己評価することで学習意欲や満足度が視覚的に分かるよう工夫がなされている。「もしも」というページでは、児童の発想につながるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 生活科の目標を達成させるために、上巻では季節遊び等の自然体験活動、下巻では地域やそこに住む人との活動で構成されている。また、「あたらしいいちねんせい」の単元を設け、入学当初の活動をイラスト等で示し、これまでの生活と小学校生活をつなぐような工夫が見られる。
61 啓 林 館	(1) 生活科の目標を達成させるために、上巻では日常生活に関わる活動、下巻では地域と触れ合い、3年生の社会科につながるような活動や3年生へのステップブックが設けられている。また、関連する教科のマークを付けるなど、関連的な学習活動が行いやすくなるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 生活科の目標を達成させるために、上巻では自分の日常と結び付けるような活動、下巻では地域の人から学ぶような活動で構成されている。また、上巻に「いちねんせいになったら」、下巻に「2年生がはじまるよ」が配置され、円滑に学習活動が進められるような工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、児童の学びの姿を具体化する吹き出しとイラスト、写真の拡大等が見られ、児童の主体的な学びを生かすような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、活動で身に付けるためのヒントや資料として「かつどうべんりちょう」があるなど、気付きの質を高められるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等を育成するために、手紙やポスター、新聞等の多様な表現方法が例示してあるなど、表現力を高められるような工夫が見られる。
4 大日本	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入の見開きの写真や、イラストや吹き出しで活動の視点を与えるなど、児童自ら問いを生み出すような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、生き物の紹介や調べ方や書き方等をまとめた「がくしゅうどうぐばこ」があり、学習活動の質を高められるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等を育成するために、児童自身の言葉を引き出す話形の提示や、「右端コラム」等の設置があり、気持ちを表現しやすくするような工夫が見られる。
11 学図	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、大きな写真による児童の意欲を喚起する工夫や、対話や吹き出しを通して、児童の気付きや問いが生み出せるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、学びの技を例示した「まなびかたずかん」や、活動の補助になる「ものしりノート」等、気付きの質を高められるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等を育成するために、多様な学習活動例や記録カード等が使いやすく配置され、児童の実態に応じた表現力を高められるような工夫が見られる。

17 教出	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、教師による呼びかけの吹き出しや児童の思考を促すようなコメントやイラスト等を活用するなどの工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、思考の「ヒント」や「学びのポケット」が配置されるなど、自ら力を高めていくような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等を育成するために、「何をかんじたかな」や「空欄」を設けており、学びの軌跡を残すなど、学習活動の質を高められるような工夫が見られる。
38 光村	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階で構成することで、児童の思考に沿って力を付けることができるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「どうすれば」コーナーを配置し、児童自身に考える視点を示すことで、活動方法を考えさせる工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等を育成するために、自己評価の可視化や、多様な表現活動を例示するなど、学習活動の質を高められるような工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「めくり言葉」を入れるなど、思いや気づきが次の活動につながっていくような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「がくしゅうずかん」において、マナーを説明するコーナーや道具の使い方の注意点等が示されており、学び方を身に付けさせるような工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等を育成するために、クイズ・絵・ペープサート・劇等多様な表現方法が示されており、学習活動の質を高められるような工夫が見られる。
116 日文	(1) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、写真を山折りにして、植物の成長過程を比較できるページや振り返りのページがあり、学びに向かう力をつけさせるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「ちえとわざのたからばこコーナー」があり、あいさつ、話し方、聞き方について、分かりやすく説明するなどの工夫が見られる。 (3) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等を育成するために、ICTの活用法やルールを示すなど、課題に対し、対応する力が身に付くような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 実物大の種や芽の写真を効果的に使用することで児童の興味・関心を高めるよう工夫されている。また、様々な植物の生長の変化をとらえやすくするなど学習効果を高める工夫がなされている。巻末に「ポケットずかん」が挿入され、学習活動の質を高める工夫が見られる。
4 大 日 本	(1) 体験活動に使用する道具を作成できるページが多く挿入されており、自ら楽しく進んで学習できるような工夫が見られる。「がくしゅうどうぐばこ」というページが巻末にあり、児童の学びを補助する工夫が見られる。
11 学 図	(1) 上下巻末に「まなびかたずかん」を設け、生活科の学習で役に立つ、見る、遊ぶ、話す、聞く、かく、発表するといった6つの基本的な学習方法を示すことで、児童の活動への意欲を喚起し、気付きを促すように工夫が見られる。
17 教 出	(1) 上下巻末に「学びのポケット」を設け、国語・音楽・道徳・特別活動などの他教科で培った力を生かすよう促すなど、児童にとって学習のコツをつかみやすく、学びに向かう力を高めるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 児童に分かりやすい平易な言葉、流れや手順を示すイラスト、ダイナミックな写真が用いられている。また、全ての単元に「どうすれば」のコーナーを設けられ、児童の活動への意欲を喚起するとともに、新たな気付きを促す工夫が見られる。
61 啓 林 館	(1) 全ての見開き紙面右下のスペースに、次の活動につながる助言や児童の活動への意欲を喚起し、気付きを促すような呼びかけの欄を設けるなどの工夫がなされている。各単元冒頭に設けられた「わくわくぼっくす」で、学習への関心と意欲を高める工夫が見られる。
116 日 文	(1) 児童がこれから行う活動様子の例を、写真で大きく載せるなど、楽しんで学習できる配慮がなされている。巻末の「ずかん」では、学習で取り扱う点字が記されており、実際に点字に触れるといった学習の質を高める工夫が見られる。

研究報告書

音 楽

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するために、基礎・基本となる精選された教材が6年間系統的に配置されている。それとともに、各地域や学校、児童の実態に応じて選択的に用いる教材や活動が設定されており、各学校のカリキュラムに応じるような工夫が見られる。 また、鑑賞で出会った教材の特性を生かし、次に表現に関連する内容へつながるような題材の構成・配列がなされている。それにより表現と鑑賞の活動が効果的に組み合わせられ、児童が学習した事を生かしながら学びの定着が図れるような工夫がなされている。
27 教 芸	(1) 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するために、基礎・基本となる精選された教材が6年間系統的に配置されている。それとともに、学びをつなげたり、広げたりすることのできる補充教材が各学年にあり、各地域や学校、児童の実態に応じて各学校のカリキュラムに応じるような工夫が見られる。 また、児童が思いや意図をもちながら音楽活動を行えるように、教材の特性を生かして関連する内容へつながる題材の構成・配列がなされており、表現活動、鑑賞活動ともに対話的な学びが深められるように、考える観点を挿絵に例示する工夫がなされている。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、全学年に「まなびナビ」「学び合う音楽」「学びのプロセス」「音楽のもと」が掲載され、学習の進め方について分かりやすく示されている。 (2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、動物の鳴き声や自然の音から関連する楽曲へ展開したり、1音のみで演奏できるリコーダーの楽曲があったりするなど、他の分野や領域と関連させながら児童が思いや意図を生かし系統的に学ぶことができるような工夫が見られる。 (3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、音楽のよさや面白さに気付き、聴き深める力を高めるための題材や、学びを生かすための音楽づくり「音のスケッチ」を設定するなどして、他者とかかわりながら音楽活動ができるような工夫が見られる。 (4) 歌唱曲の歌詞などの内容を忠実に表現した写真を掲載したり、「まなびリンク」で「見る」「きく」「知る」ことができるようにしたりするなど、人々の生活と音楽を結びつけるような資料や教材の工夫が見られる。また、学びの中で協働する楽しさを味わえるような題材を配列したり、我が国及び諸外国の音楽について触れる教材を設定したりして、「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指している。 (5) 中・高学年では、児童が気付いた要素等を書き込む「メモ欄」が新設されている。それにより「音楽的な見方・考え方」を働かせ、思考・判断しながら、自分の考えを積極的に表現することができるような工夫が見られる。

27 教 芸	(1) 児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、全学年に「学びの地図」「ふりかえりのページ」、イラスト付きのコラムが掲載され、学習の進め方について分かりやすく示されている。また、全学年に音楽を形づくっている要素や題材のねらいが明示され、主体的に音楽に向き合えるような工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、リコーダーの既習音のみを使った練習曲があったり、学習した歌唱曲からリズム遊びにつなげたりするなど、学んだ音や音楽を関連させながら学習できるような工夫が見られる。 (3) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、友だちがつくった旋律のよさや違いを比較しながら聴き深める力を高める題材と学年間の系統性を生かした音楽づくりを設定するなどして、言葉や音による対話を通した音楽表現ができるような工夫が見られる。 (4) 社会の中の音や音楽が果たす役割について気付かせるような題材を配列したり、関連する資料を掲載したり、我が国及び諸外国の音楽について触れる教材を設定したりするなど、人々の生活と音楽を結びつけるような資料や教材の工夫が見られ、「学びに向かう力・人間性等」の涵養を目指している。 (5) 全学年において、挿絵の吹き出しを使って考える観点を与えることで、児童が主体的に学習に取り組み、自分の考えを積極的に表現することができるような工夫が見られる。
--------	--

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 教科書は低学年が AB 版、中・高学年は AB 版より高さが 2 cm 大きくなり、全学年軽量化、視覚負担の軽減が図られている。表紙は、該当学年で学習する内容のイラストを用い、学習の見通しがもてるような工夫がなされている。巻末には、全学年「音楽ランド」で多種多様な楽曲が設けられ、教科横断的な扱いができるような教材の工夫が見られる。 我が国や郷土の音楽については、4 年生から和楽器を使った教材の導入や、巻頭への国内外で活躍する日本の音楽家からのメッセージ掲載といった、児童の興味・関心を高めるような工夫が見られる。 (2) 児童が分かりやすく学ぶために、楽譜については、発達の段階に応じた絵や図での楽譜から五線譜に移行したり、復習やトレーニングができるような透明シートを活用したりするなど、読譜の定着のための資料の工夫が見られる。 器楽の技能習得については、鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入において、児童が着実に技能を身に付けられるように、指の置き方や楽器の使い方などを、実物に近い大きさの写真で示すといった工夫が見られる。 (3) 児童の学びを深めるために、全学年の目次の右下に、QR コードが掲載されており、楽器の演奏の仕方や、作曲者のメッセージの動画等が参照できるといった工夫が見られる。また、楽曲のイメージを広げ、楽しく音楽活動ができるように、折り込みでの鮮明な写真や、実物とイラストの合成写真を掲載するなどの工夫が見られる。 (4) 特別支援教育の視点にたった配慮については、より多くの児童が学びやすいように UD フォントの使用や表現方法の工夫が見られる。

27 教 芸	(1) 教科書は全学年同じ AB 版であり、全学年の軽量化が図られている。表紙と目次の前ページでは、該当学年で学習する内容のイラストを用い、学年の見通しがもてるような工夫がなされている。巻末には、全学年「みんなで楽しく」で多種多様な楽曲が設けられ、教科横断的な扱いができるような教材の工夫が見られる。 我が国や郷土の音楽については、3 年生から和楽器を使った教材の導入があり、全学年の裏表紙には伝統芸能の写真を載せることで、児童の興味・関心を高めるような工夫が見られる。 (2) 児童が分かりやすく学ぶために、楽譜については、発達の段階に応じた絵や図での楽譜から五線譜に移行し、低・中学年の必要なページには音階を縦書きで示し、音の高低を意識付けできるような資料の工夫が見られる。 器楽の技能習得については、鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入において、児童が着実に技能を身に付けられるように指の置き方や指番号、楽器の使い方などを、実物に近い大きさの写真で示すといった工夫が見られる。 (3) 児童の学びを深めるために、必要なページに QR コードが掲載され、楽器の演奏の仕方の動画が参照できたり、関連内容のウェブサイトが示されたりといった工夫が見られる。また、楽曲のイメージを広げ楽しく音楽活動できるように、見開きの鮮明な写真や、実物のイラストを発達の段階に応じて掲載する工夫が見られる。 (4) 特別支援教育の視点にたった配慮については、大切な言葉や楽譜などの情報に注目することができるようレイアウトや色の工夫が見られる。
---------------	--

研究報告書

図画工作

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	(1) 図画工作科の目標を達成するために、「自分の考えや感じ方を大切にする表現の追求」等の力の育成をねらい、6年間の系統性を意識した題材が配列されている。また、簡単なものから複雑なものへと難易度を考慮して順序性が整えられており、構成・配列の工夫が見られる。 (2) 造形的な創造活動を目指すために、季節及び行事に配慮した題材の配列がなされている。また、身近な材料や身体を使って活動している様子や、児童の実態に応じて活動できるような実践例が示されるなどの工夫も見られる。 (3) 楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を育てるために「造形遊び」「絵」「立体」「工作」「鑑賞」の5つの分野で構成されている。各学年に「絵」、「工作」の分野が連続して配列されているところがあり、その中で、めあてや使う材料を変化させることで、児童がその変化を楽しみ、興味・関心を高められるような工夫が見られる。
116 日文	(1) 図画工作科の目標を達成するために、「感じる・ためす・つくりだす」等の力の育成をねらい、6年間の造形活動を見通した構成になるように題材が配列されている。また、題材での学びを次の活動に生かすことができるように系統性をもたせた構成・配列の工夫が見られる。 (2) 造形的な創造活動を目指すために、地域や学校の実態に合わせて、題材を選択したり組み合わせたりできるようにしている。また、一つの題材で活動場所を変えたり複数の実践例が示されたりするなどの工夫も見られる。 (3) 楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を育てるために「造形遊びをする活動」「絵に表す活動」「立体に表す活動」「工作に表す活動」「鑑賞する活動」の5つの分野で構成されている。各学年に5つの分野がバランス良く配列されおり、児童が多様な題材の変化を楽しみ、興味・関心を高められるような工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	(1) 製作のポイントや製作過程を段階的に示し、児童が主体的に造形活動に取り組めるよう工夫されている。また、「ひらめきコーナー」で、気軽に表現し、自由に活用できる内容を紹介するなど、情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような「主体的・対話的で深い学び」を展開するための工夫が見られる。 (2) 仕上がった作品が一目でとらえやすいよう大きめの写真で示し、それを活用して色や形などの造形的な視点の理解につなげる工夫が見られる。また、「造形の引き出し」に用具の使い方などの説明が詳しく示されており、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 完成作品や製作過程の活動の写真が中心に示されている。それを手掛かりにしながら自分なりの発想や構想を促すことで、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。 (4) 各題材に、自己評価の視点や他教科との関連が明示してある。また、「みんなのギャラリー」や5・6年の「つながる造形」では、多様な造形活動が紹介され、「学びに向かう力・人間性等」を育成できるような工夫が見られる。
116 日文	(1) 発想や構想、製作のヒントを示し、児童が主体的に造形活動に取り組むことができるよう工夫されている。また、「ひらめきポケット」で造形的な視点を広げるヒントを紹介するなど、情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような「主体的・対話的で深い学び」を展開するための工夫が見られる。 (2) 多様な製作活動の様子が多くの写真で示され、表現活動の内容や造形的な視点の理解につなげる工夫が見られる。また、巻末の「使ってみよう材料と用具」に用具の使い方などの説明が詳しく示されており、児童が生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 製作過程の多様な活動の写真、児童の思いや発想の広がりに関する吹き出し、多様な表し方を促す文などが多く示されている。それを手助けとして児童の発想を広げ、「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。 (4) 各題材に、学習したことを今後の造形活動や日常生活に生かす視点が明示してある。また、「教科書美術館」や5・6年の「図画工作のつながりひろがり」で多様な造形活動について紹介し、「学びに向かう力・人間性等」を育成できるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	(1) 教科書のページ数を前回より増やし、多様な作品に触れられるようにしながらも、写真や絵、図の重なりをできる限り減らし、掲載の仕方を考慮するなど、児童の心に強く訴えようとする工夫が見られる。 (2) 表紙には「わくわくするね」などの、発達の段階に応じたテーマが学年ごとに書かれている。また、書名の題字は、それぞれの学年で扱う材料を用いて実際につくった文字を掲載している。 (3) 導入では、教科書の書名として設定したテーマをもとに、美術作品や公共性を考えさせる作品が掲載されており、児童の意欲を喚起し、表現することの意味や価値、考え方を分かりやすく伝える工夫がされている。 (4) 目次には、各題材が、5つの分野や教科で育てたい三つの資質・能力がどれに該当するのかをアイコンで示してある。また巻頭には、カリキュラムを系統的、構造的に図示する工夫がされている。さらに、学習の3つのめあてに対応したキャラクター、使用する材料や用具、安全面、片づけ、QRコードについての説明があり、一目で分かりやすく、児童が主体的に活動に取り組みやすい工夫が見られる。
116 日文	(1) 教科書のページ数を前回より増やし、多様な作品に触れられるようにしながらも、全ての題材を見開きで扱い、題材を大きく鮮明にとらえられるようにするなど、児童の心に強く訴えようとする工夫が見られる。 (2) 表紙には「たのしいなおもしろいな」などの、発達の段階に応じたテーマが低・中・高学年ごとに計3種類書かれている。また、表紙の絵は、各学年で扱う描画画材や技法などを用いた児童作品を掲載している。 (3) 導入では、児童の発達の段階に合わせたテーマをもとに、身の回りのものから美術作品まで幅広い図版で「教科書美術館」として掲載されており、身の回りを造形的な見方で捉える力を育む工夫がされている。 (4) 目次には、各題材が、5つの分野のどれに該当するか、アイコンによって示してある。また、学習の3つのめあてに対応したマークの説明と、学びの振り返りなどが提示されており、めあてとまとめの一貫性がなされている。さらに、用具のマークや、道德とのつながりを示すキャラクターなどが提示され、一目で分かりやすく、児童が主体的に活動に取り組みやすい工夫が見られる。

研究報告書

家 庭

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点 1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 家庭科の目標を達成するために、基礎的・基本的な内容から応用・発展的な内容へと児童の発達段階に応じた 15 題材が系統的に配列されている。また、すべての題材が 3 段階で展開され、問題解決的な学習が繰り返し行えるように構成が工夫されている。
9 開隆堂	(1) 家庭科の目標を達成するために、平易な内容から難しい内容へとスモールステップで学習が積み上げられるように 20 題材が配列されている。また、すべての題材が 3 段階で展開され、問題解決的な学習が繰り返し行えるように構成が工夫されている。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 題材が「課題発見」「課題解決」「評価・改善」で構成されている。どのステップにおいても互いに交流を図る中で考えが深まり、生活を見つめ、発見した課題を解決していく流れにすることにより、主体的・対話的で深い学びにつながるよう工夫されている。また、生活を見つめるときの見方や考え方を「家庭科の窓」として設定し、学習したことを生活に生かすように工夫してある。 (2) 日常生活に必要な知識や技能を「いつも確かめよう」の巻末拡大版において示し、実物大の作業場面を右利き左利き双方の写真で掲載するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 写真や絵などの情報から気付いたことをもとに、「話し合おう」の活動の中で、主体的・対話的で深い学びを通して、自分の考えを広げたり深めたりできる構成になっている。また、「資料・日本の伝統・プロに聞く・発展」等の豊富な情報を的確に読み取り、自分の考えをもち、積極的に表現することができるような内容になっており、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような手立てが見られる。 (4) 生活をよりよくしようとする実践的な態度を養うために、題材の最終段階において「生活を変えるチャンス」「深めよう」「まとめ」が設定され、自分の考えを積極的に表現し、学びを生活や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を涵養できるような工夫が見られる。

発 行 者	概 評
9 開隆堂	(1) 題材が「見つける・気づく」「わかる・できる」「生かす・深める」で構成されている。学習過程において「話し合おう」「調べよう」「考えよう」「やってみよう」等の課題が適切に配置され、主体的・対話的で深い学びにつながるような工夫がみられる。さらに、生活を見つめるときの見方や考え方を、案内役の四つ葉のクローバーが説明することにより、学習したことを生活に生かすように工夫してある。 (2) 日常生活に必要な知識や技能を、調理や製作などの手順を示す図では、児童の視線の流れを考慮して見開きページを使って横に流れる記述がされており、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫がみられる。 (3) 写真や絵などの情報から気付いたことをもとに、対話する中で、主体的・対話的で深い学びを通して、自分の考えを広げたり深めたりできる構成になっている。また、「参考」やQRコード等による資料や動画をもとに情報を的確に読み取り、自分の考えをもち、積極的に表現することができるような内容になっており、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような手立てが見られる。 (4) 生活をよりよくしようとする実践的な態度を養うために、題材の最終段階において「チャレンジコーナー」や「レッツトライ 生活の課題と実践」「生活に生かそう」が設定され、自分の考えを積極的に表現し、学びを生活や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を涵養できるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東書	(1) 「イエッティ」「トリー」や児童のキャラクターの吹き出しを通して家庭科の見方・考え方や学習のポイントを具体的に示すことにより、児童の学習意欲を高める工夫が見られる。 (2) 使いやすいように巻末にまとめられた、安全に実習するための「調理実習」「製作実習」「地震が起こったとき」という内容や、「安全」「環境」「日々の備え」のマークとチェック欄の設定により、児童が安全や環境、防災について意識して活動できるようになっている。 (3) 学習を進めていく上で、専門的な用語についての説明が必要な場合は、教科書下部に「言葉」が掲載され、児童が理解しやすい簡潔な表現で解説を加える工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 案内役の「四つ葉のクローバー」のキャラクターが、家庭科の見方・考え方を働かせる手助けや学習のヒントを伝える役目を果たすことにより、児童の学習意欲を高める工夫が見られる。 (2) 調理や製作の実習において作業を安全に進めたり、日常の防災意識を高めたりする特設ページや、「安全」「環境」「防災」のマークとチェック欄の設定により、児童が安全や環境、防災について意識して活動できるようになっている。 (3) 全ページの下部にそのページに関連する用語の説明や、用具、歴史など本文と関連付けた「ひとロメモ」が掲載されており、家庭科に関する興味関心を高められるように工夫されている。

研究報告書

保 健

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等について、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 児童が課題を見付け、その解決に向けて主体的に学習することができるよう、大単元の冒頭に学習内容が明記してある。また、小單元ごとに学習の進め方や学習の課題が明示され、「気づく・見つける（課題把握）」「調べる・解決する」「深める・伝える」「まとめる・生かす」という構成になっており、主体的・対話的で深い学びを展開できるようになっている。 (2) 生涯にわたって心身の健康を保持増進していくために必要な資質や能力の基礎を培うことができるよう、「資料」や「Dマーク（動画やシュミレーション）」のコーナーなどを設定し、身近な生活において学習課題を発見したり解決したりする学習を通じて、学びを広げ深められるよう工夫されている。
4 大 日 本	(1) 児童が課題を見付け、その解決に向けて主体的に学習することができるよう、大単元の冒頭に「わたしたちはどこかな」のコーナーを設けて興味を引き、小單元ごとに学習の課題が明示されている。また、「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」「活用して深めよう」という構成になっており、主体的・対話的で深い学びを展開できるようになっている。 (2) 生涯にわたって心身の健康を保持増進していくために必要な資質や能力の基礎を培うことができるよう、「もっと知りたい」や「楽しい保健ウェブ（動画や資料）」のコーナーなどを設定し、身近な生活において学習課題を発見したり解決したりする学習を通じて、学びを広げ深められるよう工夫されている。
207 文 教 社	(1) 児童が課題を見付け、その解決に向けて主体的に学習することができるよう、大単元の冒頭に学習内容が明記してある。また、小單元ごとに学習の課題が明示され、「ふり返ってみよう・考えてみよう・調べてみよう・話し合ってみよう・やってみよう」「新しい自分にレベルアップ」という構成になっており、主体的・対話的で深い学びを展開できるようになっている。 (2) 生涯にわたって心身の健康を保持増進していくために必要な資質や能力の基礎を培うことができるよう、「情報コーナー」や「ホームページにアクセス（web サイト）」のコーナーなどを設定し、身近な生活において学習課題を発見したり解決したりする学習を通じて、学びを広げ深められるよう工夫されている。
208 光 文	(1) 児童が課題を見付け、その解決に向けて主体的に学習することができるよう、大単元の冒頭に学習内容が明記してある。また、小單元ごとに学習の課題が明示され、「はじめに（振り返り）」「調べよう・考えよう・やってみよう・話し合おう」「学んだことを生かそう伝えよう」という構成になっており、主体的・対話的で深い学びを展開できるようになっている。 (2) 生涯にわたって心身の健康を保持増進していくために必要な資質や能力の基礎を培うことができるよう、「さらに広げよう深めよう」や「動画やweb サイト」のなどを設定し、身近な生活において学習課題を発見したり解決したりする学習を通じて、学びを広げ深められるよう工夫されている。

224 学 研	(1) 児童が課題を見付け、その解決に向けて主体的に学習することができるよう、大単元の冒頭に「あなたはどんなことを学習してみたいですか」と問いがあり、小單元ごとに「ここで学ぶこと(学習の課題)」が明示されている。また、「つかむ(課題把握)」「考える・調べる」「まとめる・深める」という構成になっており、主体的・対話的で深い学びを展開できるようになっている。 (2) 生涯にわたって心身の健康を保持増進していくために必要な資質や能力の基礎を培うことができるよう、「もっと知りたい・調べたい」や「教科書サイト」のコーナーなどを設定し、身近な生活において学習課題を発見したり解決したりする学習を通じて、学びを広げ深められるよう工夫されている。
---------	--

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 「知識」を習得するために、小单元ごとに穴埋め問題や振り返り記述を設けたり、大单元ごとにもチェックや振り返り記述を設けたりするなどの工夫が見られる。 (2) 不安や悩みの対処法としての「技能」を習得するために、「実習」コーナーを設け、呼吸法や軽い運動をイラストや動画で確認しながら実践できるような工夫が見られる。 (3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「気づく・見つける」において、ページ全面を使った資料等で生活経験を振り返り、気付いたことや見つけたことを記述する場面、「深める・伝える」において、自分の考えを整理するための視点に沿って記述し、説明する場면을位置付けるなどの工夫が見られる。 (4) 文章表記に加え、課題設定の資料には写真やイラストを、課題解決の資料にはイラストや図を掲載している。また、発展学習につながる「資料」として、アスリートの経験談や写真やイラスト資料、発展活動例を掲載するなど、様々な情報を的確に読み取りながら学びを深め、さらなる学びへつなげられるような工夫が見られる。
4 大 日 本	(1) 「知識」を習得するために、大单元ごとにチェック表や振り返りの記述を設けたり、それぞれの小单元の内容を簡潔な文章表記で整理したりするなどの工夫が見られる。 (2) 不安や悩みの対処法としての「技能」を習得するために、「やってみよう」コーナーを設け、呼吸法や体ほぐしの運動をイラストで確認しながら実践できるような工夫が見られる。 (3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「話し合ってみよう」において、いくつかの統計資料やイラストなどから見つけた課題や解決策について話し合う場面、「活用して深めよう」において、学習したことを日常生活に生かすための考えを記述し、説明する場面を位置付けるなどの工夫が見られる。 (4) 文章表記に加え、課題設定の資料にはイラストや統計資料を、課題解決の資料にはイラストや図を掲載している。また、発展学習につながる「もっと知りたい・はってん」として、写真や新聞記事を掲載するなど、様々な情報を的確に読み取りながら学びを深め、さらなる学びへつなげられるような工夫が見られる。
207文 教 社	(1) 「知識」を習得するために、大单元ごとに学習したことを振り返り記述する「宣言」のコーナーを設けたり、内容を簡潔な文章表記で整理したりするなどの工夫が見られる。 (2) 不安や悩みの対処法としての「技能」を習得するために、「やってみよう」コーナーを設け、呼吸法や軽い運動をイラストで確認しながら実践できるような工夫が見られる。 (3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「ふり返ってみよ

	う・調べてみよう」において、生活経験や資料から課題を見つける場面、「話し合ってみよう」において、イラストなどで課題解決に向けた選択肢が示され、そのことを基に調べたことや考えたことについて話し合う場面を位置付けるなどの工夫が見られる。 (4) 文章表記に加え、課題設定の資料にはイラストやチェック表を、課題解決の資料にはイラストや統計資料を掲載している。また、発展学習につながる「発展」として、アスリートの経験談や統計情報を掲載するなど、様々な情報を的確に読み取りながら学びを深め、さらなる学びへつなげられるような工夫が見られる。
208 光 文	(1) 「知識」を習得するために、大單元ごとに穴埋め問題やチェック表、振り返りの記述を設けたり、内容を簡潔な文章表記で整理したりするなどの工夫が見られる。 (2) 不安や悩みの対処法としての「技能」を習得するために、「やってみよう」コーナーを設け、呼吸法やストレッチをイラストで確認しながら実践できるような工夫が見られる。 (3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「はじめに・調べよう」において、生活経験や資料から課題を見つける場面、「話し合おう・考えよう」において、考えをまとめやすいように豊富なイラストが示され、そのことを基に調べたことなどを記述し、話し合う場面を位置付けるなどの工夫が見られる。 (4) 文章表記に加え、課題設定の資料にはイラストを、課題解決の資料にはイラストや統計資料を掲載している。また、発展学習につながる「さらに広げよう」として、アスリートの経験談や統計情報、コラムを掲載するなど、様々な情報を的確に読み取りながら学びを深め、さらなる学びへつなげられるような工夫が見られる。
224 学 研	(1) 「知識」を習得するために、小單元ごとに振り返り記述を設け簡潔に整理したり、大單元ごとにもチェックや振り返り記述を設けたりするなどの工夫が見られる。 (2) 不安や悩みの対処法としての「技能」を習得するために、「実習」コーナーを設け、呼吸法や体ほぐしの運動をイラストで確認しながら実践できるような工夫が見られる。 (3) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、「つかむ・振り返る」において、生活経験や資料から課題を見つける場面、「考える・調べる」において、イラストによる説明や吹き出しなどが示され、そのことを基に調べたことや課題を解決するための方法を話し合う場面を位置付けるなどの工夫が見られる。 (4) 文章表記に加え、課題設定の資料にはイラストや写真を、課題解決の資料にはイラストや統計資料を掲載している。また、発展学習につながる「もっと知りたい調べたい」として、写真やコラムを掲載するなど、様々な情報を的確に読み取りながら学びを深め、さらなる学びへつなげられるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、一単位時間4ページの構成になっているとともに、一つ一つのイラストが大きく、記述欄も余裕が感じられ、児童にとって主体的に思考しやすいつくりになっている。 (2) 児童が学習に対して興味・関心を高められるように、大単元の導入において写真を基にして本時の課題を見つける活動を設定している点が特筆すべき点である。
4 大 日 本	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、一単位時間見開き2ページの構成になっているとともに、文章が簡潔で記述欄が少なくコンパクトにまとめられており、児童にとって学習内容を把握しやすいつくりになっている。 (2) 児童が自分の身近な問題として課題意識をもつことができるように、大単元の導入において内容につながるゲーム的な活動が設定されている点が特筆すべき点である。
207 文 教 社	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、大単元の導入でこれからの学習を見通せる「動機付け」のページがあるとともに、多様な記述欄が設けられており、児童にとって課題意識をもちやすいつくりになっている。 (2) 児童が日常生活でも実践しようとする意欲をもたせるために、学習の終盤で学んだことを「宣言」する活動が設定されている点が特筆すべき点である。
208 光 文	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、大単元の導入で学習内容にかかわる4コマ漫画を掲載しているとともに、学んだことを記述する欄が設けられており、児童にとって課題解決に向けて取り組みやすいつくりになっている。 (2) 児童が自分の興味・関心に応じてさらに学習を深めることができるように、学習の終盤に発展的な資料が豊富に掲載されている点が特筆すべき点である。
224 学 研	(1) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、一単位時間見開き2ページの構成になっているとともに、章末では知識の確認や学びを深めるための記述欄が設けられており、児童にとって学習内容を把握しやすいつくりになっている。 (2) 児童が学んだことを実際に視覚的・科学的に捉えることができるように、学習の中盤・終盤に科学的な資料や実験結果が掲載されている点が特筆すべき点である。

研究報告書

外 国 語

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された教科の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 単元の構成に関しては、「Small Talk」・「Sounds and Letters」を位置付け、既習表現や「聞くこと」「書くこと」の定着を図ったり、「Over the Horizon」で既習事項を発展的にとらえ世界に視野を広げたりするなど、各単元の目標を達成できるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、自分の身の回りの話題から世界の話へへと徐々に視野を広げ、英語を使う日常生活の場面を提示するなど、教科の目標を達成できるような工夫が見られる。
9 開 隆 堂	(1) 単元の構成に関しては、「聞くこと」（インプット）の活動を初めに行い、その後、「話すこと」・「書くこと」（アウトプット）などの活動を繰り返すことにより順を追って学習を進めるようにするなど、各単元の目標を達成できるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、身の回りの題材をスモールステップで学習することに加え、単元ごとに身に付けた知識や技能を活用する「Project」を設定するなど、教科の目標を達成できるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 単元の構成に関しては、単元ごとの目標を明記するとともに、学習の進め方を明示し、ゴールイメージをもたせたり、単元の最後に学習した内容をバランスよく活用する「Use & Check」を設定したりするなど、各単元の目標を達成できるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、「Pre-lesson」で学習への関心を高め、「導入ー活動ーまとめ」を系統的に行い、身に付けた知識等を活用する「Project Time」の設定など、教科の目標を達成できるような工夫が見られる。
15 三 省 堂	(1) 単元の構成に関しては、「HOP」「STEP」「JUMP」の3つのまとまりで、明確な場面を設定してコミュニケーションを図らせたり、「Panorama」で学習意欲を高めたりすることで、各単元の目標を達成できるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、「Welcome to our school」「My Memories」「I want to be a vet」の大単元で構成し、身近な出来事と重ね合わせながら学習を進めることで、教科の目標を達成できるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 単元の構成に関しては、冒頭に1年間の目標を示し、各単元の終わりにはアルファベットの形の復習、音声と文字の関係の学習、復習の活動、振り返りコーナーの設定等により主体的な学習が進められるなど、各単元の目標を達成できるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、複数単元の学習後、それらを生かした発展資料が準備されていたり、巻末資料において学習に用いる単語や表現をまとめて提示してあったり等、教科の目標を達成できるような工夫が見られる。

38 光 村	(1) 単元の構成に関しては、巻頭の「Let's start」で学習に必要な英単語を示し、学習のイメージをもたせたり、単元全体で国際交流を念頭においた表現の仕方の学習や異文化への気付きなどを取り上げたりするなど、各単元の目標を達成できるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、「世界の友達」・「Fun Time」を設定し、既習内容を生かして学習を進めたり、さらに活動内容を広げたりすることで教科の目標を達成できるような工夫が見られる。
61 啓 林 館	(1) 単元の構成に関しては、「GOAL」で Unit 全体のめあてを確認させ、「Looking Back」を通して学びを実感させたり、「Let's Read and Write」で書く活動に取り組んだり、「Did you know?」で異文化にふれたりするなど、各単元の目標を達成できるような工夫が見られる。 (2) 単元の配列については、「Pre Unit」で前学年の学習を振り返り、「REVIEW」で単元のまとめを設定するなど、教科の目標を達成できるような工夫が見られる。

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを積極的に表現したりするような主体的・対話的で深い学びを通して、目指すべき資質・能力を確実に身に付けさせるために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 「StartingOut」で得た情報をもとに、基本的な表現や必要な情報を使つて的確に話す活動をスモールステップで学習する場の設定など、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (2) 複数の単元のまとめとなる「Check Your Steps」では、単元末に作成したコミュニケーションカードや学んだ英語表現を活用しながら、自分の考えを積極的に表現する機会を設定することで、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
9 開隆堂	(1) 巻末の「文字に慣れよう」では、英語表現を的確に学ぶために、単元ごとに音を聞いて文字を想起する活動から単語等を書き写す活動へ段階的に活動を設定するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (2) 自分の考えを積極的に表現するために、各単元においてペアやグループで行う活動を数多く取り入れたり、年間2回の「Project」では、これまで学んだことを総合的に自己表現する機会を設定したりすることで、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 必要な情報を的確にとらえたり、簡単な語句や基本的な表現を理解したりするために、聞いて答える活動や読み・書きの時間を繰り返し設定するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (2) 身に付けた知識・技能を確認し、活用する「Use & Check」の活動を単元末に設定するとともに、年間2回の「Project Time」において、ペアやグループで自分の考えを積極的に表現する活動を行うことで、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
15 三省堂	(1) 文字がもつ音に繰り返し慣れ親しむ「Sound Chant」や、文字と音との関連に気付く「Enjoy Reading」を各単元で実施し、必要な情報を的確に学ぶ機会を設定するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (2) 単元末に設定した「JUMP」では、「STEP」で積み重ねてきた知識・技能をもとに、ペアやグループでの主体的・協働的な学び合いや発表など、様々な言語活動を取り入れながら、自分の考えを積極的に表現することで、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。

発 行 者	概 評
17 教 出	(1) 必要な情報を的確にとらえ、基本的な表現に主体的に慣れ親しむために、単元ごとの「Activity」において言語活動の様子を表した挿し絵を掲載するなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (2) 各単元でペアやグループでの活動を重視した「Activity」を複数回設定したり、単元末に「Final Activity」の発表等を行ったりするなど、難易度を高めながら自分の考えを積極的に表現する場を増やすことで、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 音や文字を的確にとらえるために、文字や語句など必要な情報に慣れ親しんだり、語句を鉛筆でなぞる活動から必要な語句を選んで書く活動へと段階的に学習活動を展開したりするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (2) 各単元にある「Let's try.」や「You can do it!」では、学校や日常生活など親しみやすい話題についてグループで考える協働学習を取り入れ、自分の考えを積極的に表現する場を設定することで、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。
61 啓林館	(1) 文字や語句など必要な情報に慣れ親しみの確にとらえるために、各単元で学ぶ語句や表現を紙面に提示し、学習内容を明確にするなど、生きて働く「知識・技能」を習得できるような工夫が見られる。 (2) 各 Part 末に設定した「Activity」で積み重ねてきたペアやグループでの活動をもとに、単元末の「Activity」では、まとめとなるコミュニケーション活動を取り入れ、自分の考えを積極的に表現することで、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(3) 巻末の絵カードにはミシン目をつけ、カードを切り取る際の利便性を高める工夫がなされている。また別冊にすることで文字を書き写す際の利便性を高めた「Picture Dictionary」、「Let's Read and Write」での四線ノートの幅や基線の色使いなど、児童にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
9 開隆堂	(1) 各単元のゴールを端的に示した「CAN-DO マップ」、「Let's Watch and Think」などの『We Can!』（文科省発行）と同じ言葉を使ったマークの使用、児童が抵抗なく学習に取り組むことができる文字のサイズ・レイアウト、点線と実線を組み合わせた四線など、児童にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
11 学 図	(1) 前学年の学習内容や単元の目標表現を、歌やチャンツ、アクティビティの中で繰り返し聞いたり声に出したりする機会や、年間10回の「Alphabet Corner」でアルファベットを繰り返し読み書きする機会を設け、児童にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
15 三省堂	(1) 興味関心を高める「Panorama」の設定、活動内容が一目で分かるアイコンの採用、相手意識をもったコミュニケーションを図るための「会話を続けるくふう」の掲載、見通しや目的をもって学習に取り組むための学期1回の「My Goal」の設定など、児童にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
17 教 出	(1) 巻末にはミシン目で切り取って使える絵カード・ワークシート等が掲載され、利便性を高める工夫がなされている。また「Activity」では具体的にどんな活動をするのかということをイラストで示しており、児童にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
38 光 村	(1) どのような活動をするのかが一目で分かるアイコンやマークの採用、見通しをもって学習に取り組める「Hop!、Step1、Step2、Jump!」の流れで統一された構成、単元のゴールの姿を具体的に写真で示した「You can do it!」など、児童にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。
61 啓林館	(1) 巻末にはミシン目で切り取って使える絵カードが掲載され、利便性を高める工夫がなされている。またPartごとのめあての提示、学習内容の定着をチェックマークと自分の言葉の両方で振り返ることができる「Looking Back」など、児童にとって分かりやすくなるような工夫がなされている。

研究報告書

道 徳

1 教科目標の達成及び単元（題材）の構成・配列等

〔観点1〕 学習指導要領に示された道徳科の目標を達成するために、構成・配列等についてどのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	低学年では「節度・節制」、中学年からは「勤労、公共の精神」、高学年では「国際理解・国際親善」などに関する教材を複数配置し、内容項目の関連を図りながら発達の段階に応じて指導できるような構成・配列の工夫が見られる。
11 学 図	全学年に「公正、公平、社会正義」、低学年には「個性の伸長」「感謝」「自然愛護」の内容項目に関する教材を複数配置し、いじめ問題やキャリア教育などに関連性をもたせて学ばせるような構成・配列の工夫が見られる。
17 教 出	「国や郷土を愛する態度」等の補充教材を巻末に設け、学校や地域の実態を考慮して、弾力的に活用できるようにしている。また、いじめ問題や情報モラル、生命尊重等に重点を置き、現代的な課題と向き合えるような構成・配列の工夫が見られる。
38 光 村	学校生活の実態と児童の成長を考慮して、年間構成が3つのまとまりに分けられている。また、教材とコラムを組み合わせた「ユニット」が年間数回位置付けられ、現代的な課題に対して、児童が実感的に学べるような構成・配列の工夫が見られる。
116 日 文	いじめの防止、安全の確保、情報モラル、キャリア教育などの現代的・社会的な課題に対応した教材を発達の段階に応じて配置している。また、児童の生活体験との関連を図った指導ができるような構成・配列の工夫が見られる。
208 光 文	低学年は自分自身との関わり、中学年は人や集団との関わり、高学年は相互理解やよりよいものの見方や考え方に関連する教材について重点化を図りながら複数配置し、発達の段階に応じて指導できるような構成・配列の工夫が見られる。
224 学 研	発達の段階に応じ、2学年ごとの重点項目を設けている。例えば、中学年では重点テーマを「仲良く生きる」とし、「友情・信頼」などの内容項目に関連する教材を効果的に複数配置することで、関連性を重視しながら、学習効果が高められるような構成・配列の工夫が見られる。

232 廣あかつき	全学年共通の重点項目を「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「生命の尊さ」に設定し、それぞれ3教材配置することで、重点的な指導ができるようにしている。また、一部の項目を連続で配列するなど構成・配列の工夫が見られる。
-----------	--

2 内容や指導の充実

〔観点2〕 主体的に自分との関わりで考えたり、多面的・多角的に考えたりしながら、自分の考えを表現できるような学習活動を展開するために、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 第3学年以上に設定された問題解決的な学習では、「問題を見つけて考える」で視点を示し問題を焦点化させたり、「考えるステップ」で話合いの手引きとして活用させたりすることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 対話やゲーム的要素を取り入れた「活動型教材」を設定するなど、様々な活動を行う中で主体的に交流することを促したり、児童の多様な考えを引き出せるようにしたりすることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 読み物教材「きづき」には、読み物とコラムのみを掲載するなど、児童自ら問題に気付かせることで、主体的に自分との関わりで考えさせるような工夫が見られる。また、コラムでは各教科等との関連をとおして学習したことを振り返らせ、主体的な行動を促すような工夫が見られる。 (2) 別冊教材「まなび」には、「こころのパレット」を設定することで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。また、自分や友達の考えの記述欄を設けるなど、様々な視点から考えるためのヒントを与え、対話的な学びを促すような工夫が見られる。
17 教 出	(1) モラルスキルトレーニングなどをおして他者とのコミュニケーションを大切にしながら、自分の考えや思いを表現できるようにしている。また、役割演技などの場面を随所に設定することで主体的に自分との関わりで考えさせるような工夫が見られる。 (2) 中心人物だけでなく、他の登場人物の気持ちや思いを多様に考えさせるような発問を設定したり、対話や議論を深められるよう人物の吹き出しをヒントにさせたりすることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。
38 光 村	(1) 児童の経験や考えを引き出せるよう、第2学年以上の教材冒頭キャラクターによる投げかけが提示され、教材末の学習の手引き「考えよう」では学んだことをどう生かしていくか考えさせるなど、主体的に自分との関わりで考えさせるような工夫が見られる。

	(2) 読み物資料だけでなく、児童に身近な生活場면을基に設定された教材も扱うことで、それぞれの立場や考えを理解した上で、話し合わせることをとおして多面的・多角的に考えることができるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 学び方の基本を理解させるための「学習の手引き」や「考えてみよう」で何を考えていくのかについて視点を与えるなど、学習への見通しをもたせたり、問題意識を高めさせたりすることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 別冊教材「道徳ノート」や教材に関連した内容を取り上げた「心のベンチ」を設定するなど、自分の考えを広げさせたり、多様な価値観に触れさせたりすることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。
208 光 文	(1) 各教材の冒頭で、主題に関わる問題意識をもたせるとともに、教材下段に自分の思考を深める投げかけを配置し、「どうして」「なぜ」と問い続けさせることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 教材下段の投げかけやその時間に学習したポイントを振り返る「まとめる」を設けたり、学んだことが他の教科・領域等及び日常生活へとつながるような課題やポイントを提示したりすることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。
224 学 研	(1) あえて教材の前に主題名を記載しないことで児童の問題意識をもたせたり、家庭と連携して行う学習活動や教材に関連させた体験活動を設定したりすることで、主体的に自分との関わりで考えさせることができるような工夫が見られる。 (2) 「広げよう」「深めよう」「つなげよう」「やってみよう」の4種類の「学び方のページ」を設ける中で、対話をもとに自己とのかかわりを問い直させることで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。
232 廣あかつき	(1) 別冊教材「道徳ノート」にある内容項目の解説や、自分を見つめ直す問いかけを生かして、価値理解を深めさせたり、自分のこととして考えさせたりすることで、主体的に自分との関わりで考えることができる工夫が見られる。 (2) 読み物教材にある「学習の道すじ」や別冊教材「道徳ノート」を活用し、自分の考えを積極的に表現し、他者と考えを交流するような学習活動を展開することで、多面的・多角的に考えさせることができるような工夫が見られる。

3 利便性の向上

〔観点3〕 学習効果や使用上の利便性を高めるとともに児童にとって分かりやすいという視点から、どのような工夫が見られるか。

発 行 者	概 評
2 東 書	(1) 学習効果や利便性については、巻頭の「道徳の学習を進めるために」を基に道徳学習の進め方や学習の流れを紹介し、話し合い活動のイメージをつかませる場面を設けることで、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。また、巻末に「学習の振り返り」を設けることで、1年間の学習活動をとおして段階的に自分の成長を感じることができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、教材の最後に「考えよう 1、2」を設け、考える方向性を示すことで、児童が主体的に課題をつかみ、積極的に意見を交流させながら学習に取り組むことができるような工夫が見られる。
11 学 図	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳の学習を始めよう」を設けることで、自分の心を見つめ直す学習の流れが視覚的に理解できるような工夫がなされている。また、別冊教材「まなび」に内容項目ごとのまとまりを作ることで、学習したことをまとめ、より深い学びにつなぐことができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、別冊教材「まなび」において「やってみよう」「かんがえよう」「みつめよう」という3つの観点を示すことで活動を明確にしている。また、自分や友達の考えを記入する欄を設けることで、主体的、対話的な学びができるような工夫が見られる。
17 教 出	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳の時間が始まるよ」や「こんな学習をするよ」を設けることで、自分自身を見つめ、課題をもって学習を進めることができるような工夫がなされている。また、教材の最後に「考えよう」「深めよう」を設定し、ねらいとする価値について考えを深めたり、広げたりすることができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、目次に4つの視点の内容を色分けし、重点項目の教材名を色囲みするなど一目で分かるようにしている。また、難解な言葉や必要な情報には「注」を付け、分かりやすい言葉で解説するなどの工夫が見られる。

38 光 村	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳の時間は」を設け、書く、読む、演じる、話し合う学習活動で、どのように考えればよいか、児童の心のつぶやきを例示するなどの工夫がなされている。また、教科書全体を「人との関係」、「広い視野」、「生き方」と区切り、その区切りごとに、「学びの記録」を設けることで、自分の変化や成長をいつでも振り返ることができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、教材冒頭において学びに見通しをもたせる問いかけの工夫や、終末部分では、道徳での学びを今後の生活にどう生かしていくかなどの視点を示すことで日常生活につなげていけるような工夫が見られる。
116 日 文	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳のとびら」や「道徳の学び方」を設けることで、学ぶ内容や発達の段階に応じた学び方に見通しをもつことができるような工夫がなされている。また、別冊教材「道徳ノート」を設け、教材に応じた考える視点や書く活動を効果的に設定することで、自己のよさや課題に気付くことができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、教材の冒頭で主な登場人物の紹介や教材への興味・関心を高める一文を設けることで、学習する内容を把握したり、イメージしたりしやすくするなどの工夫が見られる。
208 光 文	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に一単位時間の流れや生活場面への広がり、教科書の使い方の具体例を設けることで、見通しをもって主体的、対話的に学習に取り組むための工夫がなされている。また、巻末に「学びの足あと」を設けることで、教材ごとに心の動きや学びを振り返り、自らの成長、新たな課題や目標を考えることができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、必要に応じて教材の冒頭で主な登場人物の紹介をしたり、児童の思考を助けたり深めたりする吹き出しを使って問いかけたりするなど、児童が学習内容を理解しやすくなるような工夫が見られる。
224 学 研	(1) 学習効果や利便性については、巻頭に道徳学習の進め方や自分を見つめるページを設けることで、見通しをもち主体的に学習を進めることができるような工夫がなされている。また、巻末には、「心のたから物」というページを設け、道徳学習をとおして心に残ったことなどを書き留め、心の成長を振り返ったり、今後の生き方につなげたりできるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、「わたしのこと」「あなた

	とわたし」「社会とわたし」「命や自然とわたし」の4つの内容項目ごとに色分けした見出しを設けたり、文字については、全ての児童が分かりやすい書体を使用したりするなどの工夫が見られる。
232 廣あかつき	(1) 学習効果や利便性については、別冊教材巻末の「心のしおり」において、学んだことを振り返り自分を見つめ直すことができるとともに、保護者や教師の意見や感想を付け加えることで、自分を振り返って成長を実感したり、課題や目標を見いだしたりすることができるような工夫が見られる。 (2) 児童にとっての分かりやすさについては、道徳の学び方が巻頭の「道徳の時間はこんな時間」に書かれていたり、教材ごとにある「考えよう話し合おう」に学習のめあてや主な視点が明示されたりしており、自ら課題意識や問題追求への意欲を高め、主体的に見通しをもって学習が進められるような工夫が見られる。